

拒食

先日、長く病院にかかっていたが、その原因が分からず、私の元に来た女子中学生の拒食の相談があったんです。

話を聴くと、ダイエットではない。中学校に上がり、初めて始めた部活や勉強の緊張感やストレスで食べれなくなると、彼女は認識しているんです。

心理学的に拒食は、自分は生きてはいけないんだ、成長してしてはいけない、大人になってはいけないんだと思いつつ、そんな禁止令が働いているとみることがあります。

例えば、人生早期の幼児期に、両親の激しいバトル、そう、激しい夫婦喧嘩を目の前になると、自分のことが原因と思いつつ、私はこの世に生まれてきていけないんだ、存在してはいけないんだ、成長してしてはいけない、と幼児決断し、それが深層心理に落ち込み、何年か経って拒食となって現れることがあるんです。

ご両親から詳しい成育歴を聴いていくうちに、その子の幼児期から小学校低学年まで、毎日繰り返されたお父さんとおじいちゃんとの激しいバトルに思い当たったんです。

そして、カウンセリングでその子の「再決断」を試み、拒食が改善しつつあるのですが、そうした「幼児決断」に、摂食障害の原因を求めることがあるんです。

即ち、彼女に「幼児決断」した小さい時、自分のことが原因と思いつつ、自分を思い出して頂き、当時のお父さんとおじいちゃんとの間で繰り返されていた激しい喧嘩の原因は、おじいちゃんの一方向的な意見の押し付けをお父さんが拒否したことであって、自分のことではなかったことを冷静に再認識させる、という「再決断」という作業をするんですね。そうして、「未処理」の思いつつを「処理」します。

(2022年6月4日放送 FM島田「ひげぐま先生の相談室」から)